

**令和 7 年度第 1 回 社会教育委員会議
議 事 概 要**

1 開催日時：令和 7 年 7 月 8 日（火） 14:00-15:00

開催場所：八尾市立青少年センター 3 階 集会室

出席委員：田中委員・中道委員・山羽委員・二宮委員・村尾委員・大槻委員・
角田委員・吉野委員・赤松委員・山根委員（順不同）

2 議事案件

1 令和 6 年度第 4 回社会教育委員会議録の承認について

2 令和 7 年度事務事業概要について

3 報告事項について

【生涯学習課】

① 八尾市生涯学習センターの指定管理者募集について

② 青少年センター講座の実施について

【生涯学習課八尾図書館】

③ 八尾市立図書館の利用状況等について

【観光・文化財課】

④ 八尾市の文化財施設のイベント等（令和 7 年 7 ～ 9 月）について

3 意見交換の概要（○：委員、●：事務局）

1 令和 6 年度第 4 回社会教育委員会議録の承認について

※全委員異議なし

2 令和 7 年度事務事業概要について

○コミュニティスクールの仕組みの中で、地域学校協働本部を作り、課題に対応していくような取り組みは、どの部局が対応していくのか。

●教育政策課、生涯学習課、学校教育推進課の 3 課で検討していく方向。

○学校と地域が協働で子どもたちを育てていく点に対しては、どのように対応していくのか。

●現状、コミュニティスクールは設置できていないが、各学校に評議委員を配置し、地域との協働を進めている。

○地域行事に参加する子どもの数が減ってきていることに関連して、次代の担い手の育成はどのようにしていくのか、また、子どもがボランティア活動に参加できるようなプログラムを検討いただきたい。

●子どものボランティア養成に関しては、リーダースクールやジュニアリーダー等の育成事業を青少年育成協議会と連携して行っている。

○家庭と学校と地域社会のつながりをもっとアピールするために情報発信が必要だと感じている。

●子どもたちの見守り支援等について、こども★はあとサポーターとして、昨年度より地域の皆様にご協力いただいている。学校通信でも周知しているが、より情報発信を進めていきたい。

○こども会への加入率が低下し、活動が低迷しているため、各地区の青少年育成

協議会に対してヒアリングを実施している。一方で、制度上、町会に加入していなければ、子ども会に加入できないなどの課題もあり、柔軟に対応していく必要があるのではないかと感じている。今後、ヒアリングの結果も踏まえ、改善できる点は改善できればと思う。

- 家庭教育学級事業における非認知能力に関する講座等の実施は、良い取り組みだと思う。

なお、青少年会館の低学年育成事業と青少年健全育成事業の違いは何か。

- 非認知能力の育成については、各小学校の入学式での動画放映や青少年センターでの講演会を実施し、参加者からは好評であった。今年度は重点事業となっているので、今後も積極的に取り組んでいきたい。
- 青少年会館での低学年育成事業は、小学生を対象とし、放課後や長期休暇中に学習会や活動をしている。青少年健全育成事業は小学生・中学生を中心とした教室講座となり、通年または単発での実施となる。
- 学校教育からの観点においても、各学校長への面談等を通じて、非認知能力の育成については、家庭教育だけでなく、学校教育での取り組みの重要性を伝えており、今後は効果が見える化できるよう取り組んでいきたいと考えている。社会教育委員の皆様には、地域における非認知能力の育成に資する取り組みをお願いしたい。

- こども★はあとサポーターで毎月学校に行っており、子どもたちの笑顔を見るのがやりがいに感じている。また、運営に携わっている子ども向けの教室では、子どもたちが主体的に考える取り組みを行っており、非認知能力の向上につながればと考えている。

- 非認知能力の育成は、子どもだけではなく、大人も重要であり、そういったことから学校だけでなく、生涯学習としての取り組みが必要である。大人たちが誰かのために学びを活かし、その姿を子どもたちが見て、そのような大人になりたいなと思って育って欲しい。そのためにも、子どもが受け身にならずに、子ども自らが企画を行うことや自分よりも低学年の子どものお世話をするなどして、自分が役に立ったと思うことが自己肯定感の積み上げになっていくと考える。予算の制約もある中で、移動図書館等の既存の資源も活用するなどして、今ある以上の成果を上げていく方法を考えなければならない。

こども会加入の課題については、どの子どもたちも参加できる未来を望む。

- こども会の課題については、子どもを中心に考えていきたい。
非認知能力の育成に関しては、既に地域や学校で様々に取り組まれており、それらも含めて見える化をすることが重要であると考えている。また、子ども自らが考え、それを地域、学校、家庭、大人がしっかりサポートできるような仕組みづくりにつなげていきたいと考える。

4 その他

- ・令和7年度近畿地区社会教育研究大会[和歌山大会]について